

【別添2】(様式例2)

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立不破高等学校

学校番号	29
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	歴史と伝統を誇る学校として、校訓「あかるく、さとく、たくましく」を旨とし、「知・徳・体」の調和のとれた人格の形成を図るとともに、生徒一人一人の個性的で多様な進路の実現を図る。		
2 評価する領域・分野	◇学校経営		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒によるアンケートでは、満足度が70%を上回った項目が36項目(38項目中)、そのうち80%を上回ったのが24項目あり、高い満足度を得ている。 ・一方で清掃については、不満足度が30%近くあり、継続した課題となっている。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の実態や時代の変化に即した、活力ある学校経営の推進		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校運営協議会を中心に、外部の有識者等の意見を積極的に取り入れ、活性化を推進する		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
① コミュニティスクールとして、地域との積極的な連携交流を図り、本校の特色を活かした「ふるさと教育」を推進します。	① 交流事業を精選し、効果的な地域社会との交流について検証する。		
② 積極的な広報活動を推進し、学校の教育活動を地域社会等にアピールします。	② マスコミへの積極的な情報提供やHPの充実を図る。		
③ コミュニケーション能力の向上を図る取組の一つとして、「高等学校少人数コミュニケーション講座推進事業」の円滑実施に努めます。	③ 学校設定教科「自己探求」の指導方法を研究し、生徒の困り感解消につなげる。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
①地域社会の行事等で活動報告を行い、ボランティアによる行事運営の補助を行った。	(1) 地域の活動に積極的に参加できたか。	A B C D	
②マスコミへの積極的な情報提供やHPの充実、メール配信システム登録の徹底を図った。	(2) 学校の教育活動を積極的に発信できたか。	A B C D	
③指導計画を修正しながら、円滑に学習内容を実施することができた。	(3) 対象生徒に適した指導内容を実施することができたか。	A B C D	
11 成果・課題	○コロナ禍の状況の中いろいろな行事を中止することが多かったが、機会をとらえてボランティア活動に参加し、部活動の発表の機会を有効に活用できた。		総合評価 A B C D
	○発達障がい支援スーパーバイザーの指導の下、指導計画に修正を加えながら、受講生徒一人一人に合わせた指導ができた。		
▲本校の現状や取組状況を更に、より効果的に周知していく必要がある。			
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・連携できる機会をとらえて、生徒が活動できる行事に積極的に取り組む。 ・学校設定教科「自己探求」では、対象生徒の個別の状況に合わせ指導計画を修正し、構築していく。 ・積極的な広報活動を継続するとともに、垂井町のみならず他地域との継続的な連携を検討する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月15日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を大切にし、生徒主体の授業や行事案の具体的な実践に努められることを期待する。 ・生徒、保護者、教職員が一体となって取り組むことの大切さを相互に理解し、それぞれの分野で前向きに実践していることがアンケート結果に表れている。 ・評価結果・分析から生徒、保護者にとって安心して学べる高校であることがよくわかる。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立不破高等学校

学校番号	29
------	----

I 自己評価

2 評価する領域・分野	◇学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの項目の満足度が80%以上である。 ・すべての項目で昨年度よりも不満足度が下がっている。 ・保護者は、「学校は、できるだけ選択授業や少人数授業又はオンライン授業を行い、生徒の理解を高めようと努力している。」は満足度が90%を超え、授業への取り組みを評価していただいている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎基本の定着とICTの効率的な取り入れ方 ～生徒の学力向上を目指した授業実践方法の研究～	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校活性化プログラムによる授業研究	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため義務教育段階までの「学び直し」を実施する。 ② 様々なICT機器の使い方を学び、授業で活用できるようにする。 ③ 加点方式を導入するなど、適切な評価の工夫に取り組む。	① 学習において、生徒一人一人のつまずきを把握し、学習意欲を喚起させ、考査の平均点の向上を実現する。 ② ICT機器を使うこと自体が目的になってしまうように、授業のねらい等を明確化し、ルールを徹底させるなどして効果的にICTを活用する。また、年間3回の公開授業期間を実施し、教員相互の意見交換を行い、授業改善の一助とする。 ③ 評価の可視化の工夫、加点評価等を実施する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 新入生の最初の課題考査に基礎学力診断テストを実施して、生徒の基礎学力を外部指標で明確にして授業に活かした。また1年時の最初の2か月間を国数英の3教科で学び直しに取り組ませ、基礎学力の充実を図った。 ② 他教科の教員で4つの班を編成し、各班で前後期に1人ずつ研究授業を実施して授業研究を行った。また、学期ごとに授業公開旬間を設け、教員相互の意見交換を行い、授業改善の一助とした。 ③ 毎時間のノート点検やプリント学習、提出課題などにおいて、生徒の取組みの評価を生徒が確認できるようにするとともに、それに応じて加点して、授業へ取り組む意欲の喚起に努めた。	①学習実態を把握し、生徒の指導に活用できたか。 ②授業評価の結果を授業改善に活かすことができたか。 ③教員が授業研究に取り組み、可視化した評価をしたか。	① A B C D ② A B C D ③ A B C D
11 成果・課題	○年2回実施の基礎学力テストから、生徒の学力推移を把握することができた。 ○類型別による履修登録を指導することで生徒の進路希望と履修科目の整合を図ってきたが、安易な選択に偏らないことや後期の履修変更を視野に入れた柔軟性のある履修登録の支援を工夫したい。 ▲今年度、一人一台タブレット端末が整備され、オンライン授業や学習支援ソフトを利用した取り組みが始まった。今後も多くの取り組みや研修を行い、生徒が主体的に活動できる授業展開の研究を進めたい。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なICT活用実践と、生徒の主体的な授業参加の工夫における授業方法の研究や授業実践に取り組んでいく。 ・安易な遅刻や欠席を減らす改善策や生徒の意識改革に向けた取り組みを他分掌と連携して行う。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月15日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・学び直しや、加点評価を取り入れるなど学習意欲を喚起したり、授業改善を組織的に取り組んだりして、着実に成果を上げている。 ・1年時の最初2か月を学び直しの時間として基礎学力の充実を図られた事、又ノート、プリント、提出物など生徒が見える加点方式で評価されたことは生徒の学習意欲を高める上でとても分かりやすく有効的な取組であると思う。
--

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立不破高等学校

学校番号	29
------	----

I 自己評価

2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 適した進路情報提供による生徒の可能性の伸長や、希望に応じた進路指導について80%以上の生徒が肯定的である。 保護者の進路情報の提供についての満足度は80%超と高い。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇社会的・職業的自立に向けて必要な基礎的能力の育成と、進路目標の実現に向けた支援に努める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 教務部長、生徒支援部長、進路支援部長、各学年主任を中心に、外部リソースとの連携も図りながら、具体的な取組の企画、立案、検証を行う。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> ①総合的な学習の時間（不破スピリットタイム＝FST）を柱としたキャリア教育を推進し、学習意欲の喚起や将来の職業選択に向けた心構えの育成に努める。 ②企業見学、ハローワーク面談を実施し、就職希望者への積極的な支援に努める。 ③希望者の適性に応じた進学志望校の支援に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①FSTプログラムの充実、インターンシップの推進、外部リソースとの連携 ②キャリアプランナーの活用、ハローワークとの連携、面接・履歴書・小論文指導・就職試験対策を通して内定率100%を目指したが至らなかった。 ③個人懇談の充実、内定及び合格後の個別の学習支援 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ①FSTは年間計画に基づき、可能な限り組織的・系統的に実施した。夏季休業中の応募前職場見学も定着した。 ②キャリアプランナーを中心とした企業訪問を通して長年の信頼関係を構築してきた。SPI2対策、岐阜協立大学と連携した面接指導等を実施した。2/5現在の内定率96%。次年度以降を意識して企業見学を実施した。 ③オープンキャンパス（Web含）への積極的な参加や進路ガイダンスをより一層充実させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員の共通理解のもと、生徒のキャリア意識の向上を図ることができたか。 ②有効な支援策を実施し、内定率の向上を図ることができたか。 ③生徒や保護者の考えを把握して、個々の適性に合った進学先の斡旋及び進学実績の向上を図ることができたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○外部リソースと連携した多様な進路行事の実施、進路実現に向けた取組等を行い、一定の成果を上げることができた。 ○きめ細かい指導をしたが、第一次就職試験の内定率は75%であった。その後粘り強く取り組んだ結果、学校斡旋希望者内定率が96%まで向上した。 ▲懇談や進路ガイダンスの実施により希望の進学先に合格できたが、それが個々の学習によるものでは必ずしもなく、また進学後の学習を充実させるための基礎学力が備わっているかについては不安を隠せない。 	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携をより密にするようFSTプログラムの見直しを行う。 ・企業との信頼関係構築に向け、現状確認・求人開拓のための企業訪問を引き続き積極的に行う。 ・早期の個別懇談を実施して、生徒自らの志望校研究を充実させることで進路先とのミスマッチをなくしていく。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月15日

意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の進路実現に向けてあらゆる支援策を粘り強く実施している中に、教育力、愛情が伝わる。 ・諸事困難な状況のなか、常に積極的に地域と関わり多くの活動、成果を収めた。 ・地域連携と掲げられながら、地域のみならず企業、大学、中学校との連携にも力を入られた事業が多くみられ、そのことから活力をみなぎらせようとする意図がよく伝わる。 ・コロナ禍にあり、計画通りには実施できなかったことは残念だが、延期やオンライン実施しての工夫があり良く推進されている。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立不破高等学校

学校番号 29

I 自己評価

2 評価する領域・分野	◇「生徒指導（教育相談）」		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p><本校外部評価票の集計・分析結果（生徒・保護者）より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なモラルやマナーの指導に関しては、生徒の満足度は86%に達し昨年度より不満足も大きく減少し、保護者の満足度も85%に達した。 ・いじめや差別の防止指導に関しては、生徒の満足度が86%と上昇し、保護者の満足度も増加し82%となった。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇学級担任・学年会・分掌との連携を密にした生徒指導を行う。</p> <p>◇地域社会の一員としての自覚を深め、主体的に判断し自らの行動に責任を持つとともに、自己指導能力を高める態度を育成する。</p> <p>◇自他の生命と人格を尊重し、道徳的実践力を育成する。</p> <p>◇積極的に共感的な生徒理解に努め、予防的・開発的教育相談を推進する。</p>		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会(いじめ防止対策委員会)・生徒支援部会・各学年会・人権教育推進委員会・特別支援推進委員会・いじめ防止等対策検討会議 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> ①家庭との連携を密にして、全職員の共通理解・行動連携のもと、自己指導能力の育成に努める。 ②共感的な生徒理解に努め、いじめ、不登校、問題行動等の未然防止・早期発見・迅速な対応に努める。 ③自己肯定感を高め、地域社会の一員としての自覚を深め、責任と節度ある態度の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①身だしなみ/遅刻者・欠席者数の比較/授業規律とユニバーサルデザイン/登下校指導によるマナー向上/情報モラルの向上 ②迷惑調査の結果と対応/相談室・保健室利用状況/全校一斉人権啓発行動の取組状況 ③部活動の一層の活性化/MSリーダーズ活動の取組状況/ボランティア活動の取組状況 		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ①遅刻者数が、平成22年度をピークに一昨年度まで減少傾向にあったが、昨年度増加した。今年度はコロナによる休校期間もあり単純比較できないが、昨年度1856人に対し、今年度は12月末段階で1372である。交通事故発生件数は、昨年度10件、今年度は7件である。 ②「不破高の生徒指導」と「学校いじめ防止基本方針」を改訂し職員間の共通理解と行動連携を図った。迷惑調査の結果を受けて、全体指導と個別指導の両面で、迅速に対応した。少人数コミュニケーション講座の開設に伴い、要特別支援生徒に対し柔軟に対応した。 ③平成29年度より携帯電話・スマホ新使用ルールを運用し、情報モラル教育の推進を図った。MSリーダーズが交通安全運動への協力を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①遅刻者数・交通事故件数は減少したか。 ②生徒の把握に努めるとともに、多様な生徒に対応したか。人権意識を高められたか。 ③生徒が主体的に活動したか。 	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>	
11. 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○大部分の生徒が携帯電話・スマホの新ルールを遵守した ○あったかい言葉掛け運動やピンクシャツデーにより、人権意識を高めた。 ▲遅刻者数が昨年度並みとなる予想である。1年生では減少したが、2年生は横ばいで、3年生では大幅に増加の予想である。また、20日以上長欠者が昨年度53名であったが、今年度は1月末で39名となっている。 		総合評価
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒心得（校則）の見直しを生徒・保護者・教員の三者で行い、生徒の主体性を育む。 ・中間層の生徒の規範意識、人権意識をさらに高め、「いじめ」が起きにくい環境を作る。 ・遅刻防止の回数指導の方法を改めるとともに全校生徒の意識向上のため「見える化」を図る。 ・特別支援教育（個別的教育支援計画、ユニバーサルデザイン）および少人数コミュニケーション講座についてさらなる整備と体制の充実を図る。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月15日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでの基本的なモラルやマナー、いじめや差別の防止指導に関して、生徒および保護者ともに満足度が80%以上を示し満足度が上がっている。 ・主体的に判断し行動に責任を持てるよう共感的な生徒理解に努めている。自己指導能力の育成や自己肯定感を高めるよう指導が積み上げられている。 ・生徒の様々な困り感に丁寧に向き合い、個に応じたきめ細やかな教育活動が展開されている。
--

